

妻沼南小学校 市民説明会 記録

日 時	令和2年2月24日(月) 10:00~12:00	場 所	妻沼南小学校体育館
(内容)			
発言者	発言内容		
市職員	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 (総合政策部長)</p> <p>3. 熊谷市の公共施設再編方針案について(資料2)</p> <p>資料の1ページをご覧ください。「1個別施設計画(案)策定に当たっての基本的な考え方」でございますが、</p> <p>(1) これまで策定したアセット・マネジメントの「基本方針」や「基本計画」に基づき、老朽化した施設を減らす代わりに、市民ニーズに合致した施設の新設・集約を実施し、同時に公共交通の充実と、民間施設の活用も推進することで、熊谷市の将来を見据えたメリハリのある計画案とすることを目指しました。</p> <p>(2) 「市民の考え方」の反映につきましては、市民アンケート、市民ワークショップ、市民説明会、その後のエリア別説明会や、地域説明会での御意見を踏まえて、この計画案を作成しました。</p> <p>(3) 「建物」は減らしても「機能」を移転・存続させ、市民サービスの維持と利用者皆様の活動の場を確保いたします。</p> <p>(4) 会議室などの「専用部分」をできるだけ存続させ、事務室、廊下などの「共用部分」を圧縮し、施設複合化のメリットを生かします。</p> <p>(5) 管理運営費のかかる「小規模施設」を廃止・集約し、新しい施設へ統合・複合化をすることで、効率的な運営を目指します。</p> <p>(6) 修繕費のかかる「老朽施設」を除却し、更新等を推進することで、維持費を節減するとともに、新しい施設によるサービスを提供してまいります。</p> <p>(7) 大規模修繕を実施していない施設の場合、総合的に判断して、新たな施設への更新を進める方が有効な場合には、更新時期の前倒しも検討します。</p> <p>(8) 「耐震化」を早急に達成することで、利用者皆様の安心・安全の確保を図ります。</p> <p>続きまして2ページをご覧ください。全ての公共施設を分野別に分けた「2個別施設計画(案)全体の構成」でございますが、本計画案は、表の通り「1庁舎等編」から「16子育て支援施設編」までの全16編で構成されており、熊谷市の「ハコモノ公共施設」が、いずれかの編に分類・記載されております。</p> <p>続きまして、3ページをご覧ください。「3計画案を実行した場合の効果」ですが、現時点の試算では、40年後、延床面積で約32%の削減を見込んでおりま</p>		

す。

続きまして、ページの中ほどをご覧ください。「4各編の考え方及び想定される主要事業」でございますが、ハコモノ施設を16の分野に分け、施設分野ごとに、主要施設の今後の方向性を掲げています。

この検討時に考慮した事項としましては、それぞれの施設の耐用年限や老朽化の状況、大規模修繕等の実施履歴、耐震化の状況、利用状況、コスト、民間も含めた同種・類似の施設の市内における分布状況、集約・複合化する施設間の調整、集約・複合化後の利用者の利用機会・選択肢の確保の可能性等を考慮しつつ取りまとめたものです。

それでは、施設分野ごとに、順に説明します。

4頁をご覧ください。まず、「(1)庁舎等編」でございますが、本庁舎建替え時に、分庁舎方式を廃止し、本庁機能を集約することで、業務効率化を図る一方、必要に応じ、(仮称)生涯活動センター内に、行政センター機能の受け皿となる出張所を設置することで、利便性を確保していく予定でございます。

続いて、「(2)行政施設等編」でございますが、各庁外事務所につきましては、業務の効率化や委託化の推進により、順次廃止してまいります。また、サポートセンター等の庁外窓口については、原則として現状維持を考えております。

続いて、「(3)市民文化施設編」につきましては、5頁の表のとおり、各エリア・地域の様々な貸館施設等を集約し、エリアごとに「(仮称)生涯活動センター」を新たに整備することを想定しております。同センターに、拠点的な公民館機能等を中核とし、多様な機能を整え、幅広い世代が集える、市民活動や社会教育の拠点としていくことを想定しております。なお、表に予定地・候補地を記載しておりますが、確定したものではありません。施設の種類・機能等によって、開発や建築の条件・制約が課せられますので、施設内容を具体的に検討する中で、建設(整備)場所を決めていくこととなります。

次に、6頁・7頁をご覧ください。「(仮称)地域拠点施設」整備事業は、地域の小学校の敷地内または隣接地等に確保し、体育館とともに、地域活動の拠点施設の整備を図るものでございます。

続きまして、7頁中ほど、「(4)社会教育施設編」をご覧ください。「ホール」につきましては、適切な規模・グレードの施設1か所への集約を想定しています。将来的には、「さくらめいと」を更新する際に、規模・機能・再配置場所等を検討したいと考えております。

「図書館」につきましては、人口分布等を踏まえ、再配置を検討することとし、将来的には、西部エリアにおける図書館整備も想定しております。

「博物館的施設」につきましては、歴史・民俗、美術、埋蔵文化財のテーマ別の施設再編及び再配置を検討することとしております。

続きまして8頁をご覧ください。「(5)人権施設編」でございますが、春日文化センターや集会所は、耐震性や老朽化、利用者数を考慮しながら存続の可否を検討してまいります。

続きまして、「(6) 保健福祉施設編」でございます。保健センター等の保健施設については、老朽化している母子健康センターの建替えと成人保健と母子保健の統合による保健・健康指導サービスの向上、また、業務の効率化の観点から、3つの保健施設を一つの施設に機能集約することを想定しております。集約にあたっては、現在の妻沼保健センターに集約する方法と蚕業試験場跡地ひろばに集約する方法を検討しているところです。

また、老朽化が進んでおります「休日・夜間急患診療所」につきましても、蚕業試験場跡地ひろばへ整備予定の「(仮称) 総合子育て支援施設」への併設を想定しております。

続きまして「(7) 水浴施設編」でございます。アクアピア、健康スポーツセンター、老人福祉センターなどが該当しますが、市民アンケートの結果や老人福祉センターの老朽化も踏まえ、全年齢層向け 屋内型の 温水浴と冷水浴が可能な施設を整備し、学校のプールの機能受入先とするとともに、子どもから高齢者まで、世代間の交流ができる施設とすることを想定しております。

また、スーパー銭湯やスイミングクラブ等の民間施設の活用も想定してまいります。

続きまして、「(8) 産業施設編」でございますが、利用者・民間・地元等との協議・調整により 整理・再編いたします。可能なものにつきましては、民間譲渡を検討してまいります。

9頁中ほどをご覧ください。「(9) 消防施設編」でございますが、老朽化・耐震性・災害時の機能維持等に課題のある大里分署と江南分署の機能を、南部エリア全体の消防力向上の観点から、吉岡地区周辺に移転集約することを想定しております。

続きまして、「(10) 環境施設編」でございますが、旧妻沼清掃センターを解体・除去し、その跡地を災害時のストックヤードとすることを想定しております。

「(11) 防災・河川施設編」につきましては、水防倉庫等、防災施設のため全て存続をさせます。

つづきまして、10頁をご覧ください。「(12) 公園・スポーツ施設編」でございますが、熊谷さくら運動公園の屋外プールを、老朽化や利用日数を踏まえて廃止し、屋内プール「アクアピア」へと機能移転することを想定しております。

更新時期を迎える市民体育館につきましては、「くまびあ」体育館への機能移転も考慮しながら、市民体育館周辺の再整備を検討していきたいと考えております。

老朽化が進む勤労者体育センターや妻沼運動公園体育館を含む地域体育館につきましては、学校統廃合の進捗に伴う学校体育館からの転用による体育施設の増加を見込み、廃止又は更新を検討していくことを考えております。

11頁をご覧ください。「(13) 公共交通施設等編」ですが、本町駐車場に

については、運営改善方策を検討しながら、当面存続の予定です。その他の駐車場・駐輪場等も存続を想定しています。

その下、「(14) 葬斎施設編」でございますが、今後の利用傾向を見据えながら、設備の増設等を検討します。

続いての、「(15) 学校施設編」につきましては、この後、教育委員会から詳細を説明させていただきます。

13頁をご覧ください。「(16) 子育て支援施設編」でございますが、保育所については、現在の保育需要が高い中で、老朽化した保育所の更新を、統合により実施しようとするものです。

また、既存の児童館に替えて、雨天時でも子供を安心して遊ばせることのできる「(仮称) こどもセンター」の整備を想定しています。総合保育所とともに、(石原地区の) 蚕業試験場跡地ひろばに、「(仮称) 総合子育て支援施設」としての整備を想定しております。

ここで、妻沼南小学校区に関わる公共施設について、まとめてお話しさせていただきます。

第3期(2035～2044年)に、現行の「妻沼中央公民館」を「(仮称) 北部生涯活動センター」として再整備し、北部地域の様々な地域活動の拠点とすることを計画しています。

また、第4期に妻沼南小学校敷地内に「(仮称) 妻沼南会館」を整備し、妻沼南小地域の活動場所を確保することを想定しております。

生涯活動センターと、地域の会館とで機能を分担し、それぞれの用途で使い分けながら、活用していただくことを見込んでおります。

学童クラブについては当面の間存続し、最終的には妻沼南小学校敷地に移転することを検討します。

妻沼南小に隣接している「老人福祉センターひかわ荘」は、「屋内型水浴施設」へ更新することを想定しています。

以上が、施設分野別の方向性・考え方でございます。なお、個々の施設には、耐用年数、建物の状況等の違いがあり、集約する場所やタイミング、方法についても、複数の既存施設の調整が必要であり、開発・建築等に関する課題も残っております。施設の再編については、本市の人口推計、今後の各エリア・地域の状況の変化も踏まえ、定期的に、必要があれば毎年度でも、見直していく予定です。

最後になりますが、これまでの公共施設マネジメントに係る取組や策定済みの計画については、市ホームページに掲載しております。今後とも、熊谷市の公共施設のあるべき姿について、皆様と共に考えてまいりますので、よろしく申し上げます。

市職員

4. 学校規模適正化について

全国的な少子化の進行により、児童生徒数が減少していますが、本市においても、ほぼ全ての学校において児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進んでおり、この傾向は、今後も続くことが見込まれています。

5ページをお願いします。上段に「市内小中学校の児童生徒数の推移と将来推計」を載せていますが、小学校で言いますと、一番左の1982年度（昭和57年度）が19,018人で、ここをピークに減少を続けています。

2019年度（令和元年度）は9,334人で、ピークと比較しますと、約50%減少しています。また、2025年度は、2019年度と比較すると、約13%減少し、8,099人、さらに、2055年度には、約45%減少し、5,115人まで減少すると推計されており、今後も小規模化が進んでいくことが見込まれています。

参考に、左下に妻沼南、男沼、太田小の将来推計の表を載せています。この推計値は、熊谷市全体の減少率を使って推計していますので、更に早いスピードで減少することも見込まれています。

2ページにお戻りください。このように学校が小規模化すると、「児童生徒相互の人間関係が深まりやすいこと」や「児童生徒に目が届きやすい」などのメリットがある一方で、「集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなる。」ことや、「人間関係の相互の評価が固定されやすい。」などの課題が懸念されています。

こうした状況から、国からも「小中学校の適正規模・適正配置の手引」が示され、市町村ごとに、「少子化に対応した、活力ある学校づくり」について、継続的に検討・実施していくことが求められており、「学校規模の適正化」に取り組むことになりました。

本市においても、「適正規模」について、検討を重ね、子供たちの教育環境を第一に考え、「知・徳・体」の確かな学力を身に付けさせるため、よりよい教育環境の創造を目指して、平成30年11月に「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」を策定し、この基本方針の中で、規模の適正化を図るための推進方策の一つとして「学校の統廃合」を進めることとしました。

右の表をご覧ください。基本方針では、「学校規模の基準」として、小学校では、12学級から18学級まで、つまり、クラス替えが可能な1学年2学級以上が望ましい。「通学の距離」は、概ね4キロ以内、「学校統廃合等の基準」としては、「複式学級」が見込まれる場合は、直ちに検討することとし、また、「全学年で単学級」となることが見込まれる場合は、「児童数の動向に注視しつつ、検討することとしています。

以上を踏まえた上で、「公共施設再編方針（案）」として3ページの上にあるとおり、学校の規模適正化を進めることとして、統廃合の案などを盛り込んだ学校施設の個別施設計画の策定を進めているところです。

案としては、児童生徒数の推移などから、左側の統廃合案のとおりとなって

いますが、妻沼南小は、男沼小、太田小の3校で、2025年度の統合を検討しています。

統廃合の内容は、右側のとおり、統合にあたっては、規模や経過年数に関わらず、対等な関係の統合とし、新たな学校として設置します。

設置場所は、既存の学校を使用し、校地面積や校舎の建築年数などを勘案して決定し、通学方法は、元の学区に小学校がなくなる地域については、原則スクールバスを想定し、中学校については、自転車通学を想定しています。また、統合は新たな学校として設置されることになるため、学校名なども新しいものになります。学校名なども含め、校歌や校章など、具体的なことについては、(仮称)新校設立検討委員会を立ち上げ、学校や保護者、地域の皆さんとともに検討して決定することになります。

続いて4ページをお願いします。3校の現状としては、現時点で、すべての学年で単学級となっていて、今後も児童数の減少が見込まれています。

再編の方針案ですが、3ページのところで説明したとおり、2025年度に3校を対等な関係で統合し、設置場所は、校舎が新しく、面積も広い、妻沼南小を考えています。

続いて、統廃合までの流れですが、昨年実施したエリア別説明会から、統廃合により影響を受ける地域での地域説明会や、元の学区に小学校がなくなる地域での保護者との説明会などを開催し、意見交換をしながら進めていますが、こういった場を通して、地域や保護者の皆さんから一定の了解を得た上で、新校設立検討委員会を立ち上げて、学校名など決める詳細な検討へと進んでいきたいと考えています。

最後になりますが、令和2年度から学習指導要領が新しくなり、これまでの授業で多くみられた一斉型の授業や、単に知識や技能を習得させる授業だけではなく、子供たちが自ら課題を発見し、主体的に学び合う活動(グループ学習などの協働的な学習)などを通じて、意欲や好奇心を十分に引き出すことが求められています。

学級の人数が少ない場合、グループ分けのパターンやグループ学習で取り上げる課題に限られることから、色々な考えに触れるとか、色々な友達と学び合うといった、新たな時代に求められる活動や授業を充実させることが難しいといった課題もあります。小規模校には、きめ細かな指導がしやすいなど、小規模校の良さがあるのは承知していますが、子どもたちにとって、「よりベターなのはどちらか」ということ考えた結果、一定の規模の中で学ばせて、これからの時代に必要な力をより身に付けさせたいと考えています。皆さんとともに一緒に検討していく部分も多くありますので、ご協力をお願いいたします。

5. 学校給食について

続きまして学校給食施設について御説明いたします。お手元のA4横の公共

市職員

施設再編方針案（学校給食施設）を御覧ください。

初めに、本市の現状ですが、ほぼ全ての学校において児童生徒が減少し、学校の小規模化が進行しており、今後もこの傾向は続くと思われています。

次に、方針ですが、「学校給食施設は新センターを整備し、自校式は順次センターへ統合」といたしました。

センター方式を採用した理由ですが、センター方式は、衛生管理、食物アレルギー対応、異物混入の防止等について管理の一元化を図ることが可能であり、学校給食において最も優先しなければならない、安心・安全な学校給食を提供できることです。衛生管理については、国の学校給食衛生管理基準の順守を徹底します。食物アレルギー対応については、一般の給食と調理ラインを分離し、アレルギーのある子ども達に対しても安心・安全な給食を提供してまいります。本市では、食物アレルギーの対応として、牛乳の飲用中止と汁物の卵一部除去食を行っておりますが、新たな除去食についても検討してまいります。また、妻沼地区の多くの学校では、建築後30年以上経過し、老朽化が進んでいます。現在は職員の努力により異物混入については防止できておりますが、今後、さらに老朽化が進むと異物混入の危険性は増してきます。新たな学校給食センターでは、一元管理の利点を活かし、安心・安全な学校給食の提供に努めてまいります。

理由の2点目として、公平性があります。本市では、これまで自校式の整備を目的に熊谷・江南の学校給食センター管内の全校について敷地調査を実施しました。その結果、学校内に調理場の整備ができない学校が全体の約3分の1あり、全校で自校方式を実施できないことがわかりました。センター方式を採用することは、市内の子供達に同じ調理方式により給食を提供することが可能であり、学校間の公平性を担保することができるものです。

次に、食育環境の充実があります。食育は、一言で申し上げるならば「健全な食生活を実施できるようにする教育」のことですが、新たな、学校給食センターでは、学校と学校給食センターの連携により、何れの学校においても、同じ食育環境を提供してまいります。

次に、新たな学校給食センター稼働後の学校給食についてですが、魅力ある学校給食を提供いたします。学校給食センターでは、食材の納品時に表面温度を図るなどのチェックを行っております。また、食材ごとに納品する窓口を分け、調理まで食材の衛生管理を徹底しております。献立については、国の基準である学校給食栄養摂取基準に配慮し、バランスの良い献立を作成してまいります。季節の食材を利用し、今の時期であれば、白菜やほうれんそう等の野菜を利用し、地産地消についても関係機関と連携し推進いたします。自校式からセンター方式へ変更する場合、最も気になる点は温かい給食の提供かと思えます。新たな学校給食センターでは、より保温性の高い食缶を利用し、温かいものは温かいまま冷たいものは冷たいままに提供いたします。

記載はございませんが、新たな学校給食センターの特色として、災害時にも

	<p>稼働できる熱源を備えた機器の整備を検討してまいります。</p> <p>最後になりますが、新たな学校給食センターでは、これまで以上に安心・安全でおいしい学校給食を提供できるよう、取り組んでまいります。</p>
市民	<p>6. 質疑・応答</p> <p>学校の統合については決定事項なのか？星宮自治会では反対意見を市に伝えたと聞いたが。</p>
市職員	<p>将来的に人口が減少することが推計され、少子化による単学級・複式学級化が見込まれております。教育環境改善のため、規模適正化のために統合を進めていきたいという考えであり、決定事項ではありません。</p> <p>星宮地域については、現在、各団体やPTA 代表者の意見を伺っているところです。</p>
市民	<p>給食をセンター方式にすることは本当にいいことなのか。他の説明会に出席したことがあるが、今回のように、給食に関する資料を用意して説明されたのは初めてだが、どういう事か？</p>
市職員	<p>資料があるほうが市の方針を、より伝えることができると考え作成しました。センター方式には、衛生管理・アレルギー・異物混入について一括で管理できるというメリットがあります。現在、アレルギー対策として、牛乳（を提供しない）や卵の一部除去をおこない、安心安全な給食を提供していますが、今の設備では限界があるため、新たな設備の導入に併せ、新たな品目の除去も検討してまいります。なお、給食の質については、基準をもとに調理しております。</p>
市民	<p>人口減少が見込まれるから施設を減らすというのでは、市が衰退してしまう。人口減少に対する対策は行っているのか？人口を増やす努力をする必要がある。</p>
市職員	<p>人口減が想定されることから、公共施設の再編を計画しております。一方、熊谷市では少子化・人口減少対策として種々の施策（三世代同居補助、新幹線通勤補助、若年層への固定資産税免除、子ども医療・学童保育等の子育て支援策の充実、雇用促進のための企業奨励金等）も実施しています。</p>
市民	<p>学校統合について、子供たちの意見は聞かないのか。</p>
市職員	<p>平成29年の市民アンケートでは、中学生以上の市民に対して実施しまし</p>

	た。
市民	単学級ではだめなのか。
市職員	令和2年4月には小学校の学習指導要領、令和3年には中学校の要領の改定が予定されております。新学習指導要領においては、子ども達の主体的な思考が求められています。市としては、一定以上の児童生徒数による学習を行い、多様な考え方に触れる機会・環境を整えていきたいと考えております。
市民	個別施設計画を進めていくと、エリアの差が顕著になるのではないかと中央エリアだけが優遇されているのではないかと。
市職員	公共施設の再編に当たっては、各エリア・各地域ごとに施設の再配置について検討しています。また、市に1箇所でのよい施設につきましては、最も適した場所に整備してまいります。
市民	適正規模と言っているが、3つの学校の子供たちの数が減れば、適正規模を保つため、またどこかと統合するのか。小規模がだめとしか聞き取れない。
市職員	現時点の人口推計を基に、早急に対応が必要なところから進めているところです。
市民	学校統廃合についての子どもたちの考えを聞くべきだとの意見があったが、子供の意見だけではよくないと思う。子どもの意思を尊重することは大事だが、子どもの教育については、責任ある大人が考えるべきことだ。(意見)
市民	他市の学校統廃合状況はどうなっているのか。
市職員	行田市も学校統廃合の話が進んでいると聞いています。行田市立の星宮小学校と行田中央小学校とが、また行田市の東部にある太田東小と太田西小とが統合予定と聞いております。また、行田市では小中一貫校の整備を行う予定となっているようです。深谷市では今のところ具体的な計画はないと聞いています。
市民	妻沼地域の保護者等の意見交換会ではどのような意見質問がでたのか？
市職員	通学方法、体操着などの学用品はどうなるのか、給食はどうなるのか、などの御質問をいただきました。また、学校がなくなることで、地域が衰退してしまうのではないかと、などの御意見をいただきました。

市民	学校の統合を急ぐべきではないのではないか？
市職員	児童生徒数が減少していて、今後も減少することが見込まれているため検討を進めています。
市民	施設の老朽化を理由の一つとしているが、修繕すればいいのではないかと？ 学校統廃合は経済的な理由ではないのか。
市職員	公共施設の修繕等については継続的に実施しておりますが、建築物には耐用年限があり、これは施設の構造により違います。個別施設計画作成にあたっては、原則的には耐用年限まで施設を使用することを想定しております。ただし、市の施設は建設された時期が集中していることから、同時期に耐用年限が到来することを想定して対応する必要があります。 一方、学校の統合については、子どもたちの教育環境を第一に考えて計画案を作成しています。
市民	北部に図書館をなくしてしまうのかいかなものか。子ども達は西部の図書館まで自転車で行かなければならないのか？
市職員	西部エリアに図書館を新たに新設することを検討しておりますが、妻沼図書館についてはエリア内での存続を想定しております。
市民	給食について、自校式を継続し施設を分けておくことで、食中毒等のリスクを分散させることができるのではないかと？
市職員	センター化による管理一元化により、衛生管理の徹底を図り、安心・安全な学校給食を提供できると考えております。
市民	現状でも住民が少なく、自治会役員になる人がいない状況である。公共施設が減ると、妻沼地区の人口減少に拍車がかかってしまい、自治会の負担も更に大きくなってしまわないか。
市職員	人口減少対策として種々の施策（三世同居補助、新幹線通勤補助、若年層への固定資産税免除、子ども医療・学童保育等の子育て支援策の充実、雇用促進のための企業奨励金等）を実施しています。
市民	適正規模というが、子ども同士の話し合いで、多様な意見が出るのか。少人数だといろいろな意見を聞けないと言っていたが、それを引き出すのが先

	生の役割なのではないか？
市職員	<p>教員については、ベテラン、若手、男女比など、バランスの良い配置を工夫し、子供たちにとってより良い学習環境を提供していきたいと考えております。</p>
市民	<p>妻沼地区は農業に関わる人が多いのに、アンケート欄に農業という職業がなぜないのか。</p>
市職員	<p>これまで実施したアンケートの区別ですが、「経営者」という認識でおります。</p>
市民	<p>給食は委託なのか。</p>
市職員	<p>熊谷と江南の給食センターの調理搬送は委託です。新センターについても委託を想定しております。</p>
市民	<p>説明会のレイアウトについて、すべての発言者の顔が見えるように工夫をしていただきたい。また、多くのひとの意見が聞けるように、一人あたりの発言時間を決めた方が良いのではないかと？</p>
市職員	<p>持ち帰って検討いたします。</p>
市民	<p>公共施設の再編となると、施設が残る地域は便利だと思う。庁舎については、分庁舎を進めるべきではないか？住民の生活を中心に考えてほしい。</p>
市職員	<p>庁舎機能については、本庁機能を集約することで業務効率化を図る一方、必要に応じて各エリアに整備予定の（仮称）生涯活動センター内に、行政センター機能の受け皿となる出張所を設置し、利便性を確保していく予定です。</p>
市民	<p>ワークショップの内容は「公共施設を10%減らしたチームが勝ち」という内容と聞いた。公共施設の削減が前提のようで悲しくなった。</p>
市職員	<p>限られた条件・状況の中でどうすればよいかという、一つのルールでしたので御理解いただきたいと思います。まお、施設面積以外に、市民満足度や地域満足度、インフラの健全化に充てる財源の確保なども考慮したルールとしました。</p>

市民	<p>今までの説明会では、参加者は学校統合ありきで質問をしている印象ではあったが、中には反対意見もあった。こういった意見も聞いてほしい。今後、人口が減れば、文化の継承もできなくなってしまう。</p> <p>また、住民アンケートは無作為に行っており、地域の意見を聞くことはできていないのではないかな？</p>
市職員	<p>今後も説明会等を実施し、地域の方・保護者の方からの意見を伺っていきたいと考えております。また、文化の継承や活動については今後どうすれば続けていけるかについては、課題であると捉えております。</p>
市民	<p>妻沼公民館について、地域住民の集いの場として残してほしい。(意見)</p>
市民	<p>他市では公共施設再編の動きが見られないのはなぜか？</p>
市職員	<p>公共施設再編の動きは全国的なものではありますが、団体ごとの公共施設の状況の違いや、計画の進捗状況の違いもあると思われます。</p>
市民	<p>学校統合にあたっての学校の組み合わせについて、地域の要望を聞いてほしい。</p>
市職員	<p>御意見・御要望については、随時伺わせていただきたいと思いますと考えております。</p>
市民	<p>現在、自校式給食で手作りの給食を食べている。自校式給食とセンター式給食それぞれの手作り率はどうなっているのか？</p>
市職員	<p>どちらの方式でも、手作りをしている部分はありますが、率については不明です。</p>
市民	<p>地域拠点施設について、小学校敷地内に施設を作ると聞いたが、部外者を入れなくてはならず、子どもの安全性が保たれるか心配である。</p>
市職員	<p>入口や動線を分ける等の方針を考えております。まだ具体的な計画は進んでおらず、今後意見を取り入れながら検討いたします。</p>
市民	<p>妻沼公民館で活動をしているが、畳の部屋で座るのが大変。また、妻沼中央公民館等から椅子を借りてくることもあり、使い勝手が良くない。一刻も早く農業研修センターに移転していただきたい。(意見)</p>
市民	<p>2025年に(小学校)統合とのことだが、決断時期はいつか。</p>

市職員	<p>今は申し上げられません。2025年の統合に向け、さらに前から準備をする必要があることから、早めの決定としたいと考えておりますが、決断時期については明示できません。</p>
市民	<p>妻沼公民館が農業研修センターへ移転するという件について、賛成意見があったが、利用者の総意ではない。反対意見もあるという現状を知っていただきたい。(意見)</p>
市民	<p>熊谷市と学校統合しない深谷市との違いは何か。</p>
市職員	<p>深谷市は統合しないのではなく、まだ議論が進んでいないのではないかと、思われます。また、深谷市と比べ、熊谷市は学校数も多く、学校規模が小さいことも理由の一つです。</p>
市民	<p>私立の高等学校等が市内にないが、県南との違いは何か。</p>
市職員	<p>普通・工業・商業・農業高校と様々な形態の高等学校が充足されていたことが原因と考えられます。</p>
市民	<p>学校統合について、反対が多数の場合には、「統合しない」ということもあるのか？また今後、説明会は何回開催するのか？</p>
市職員	<p>児童生徒数の減少が見込まれる中、子どもたちを第一に考え、より良い教育環境を整えるために学校統合計画案を提示しています。今後の説明会の開催回数については、進捗次第となります。</p>
市民	<p>学校統合について、現在提示されている案は一つであるが、地域の意見を聞いたうえで、複数案を示すことも考えられるのか？</p>
市職員	<p>根拠に基づいて、最適と思われる案を提示していくことを考えていますが、現状では、より適正規模となる案を示しており、案は一つになっております。</p>
市民	<p>現在の計画では、国道407号以西に学校が無くなり、避難場所も無くなってしまふ。例えば、妻沼西中学校を統合先にすることは考えていないのか？</p>
市職員	<p>御意見として伺います。避難場所については、現在検討中です。</p>

市職員	<p>本日は、限られた時間の中のご意見・ご質問となり申し訳ございませんでした。ご意見やご質問については、次第の一番下にあります連絡先にお電話またはメールにてお聞かせください。本日はありがとうございました。</p> <p>《閉会》</p>
-----	--